

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

ピアノ演奏や学校の音楽教師の経験、教科書教材の作編曲、読譜指導等の多様な実務経験を生かして、音楽に関する基礎知識や理論、歌唱法、コード伴奏法を学ぶクラス授業（ML教室45分）を行うとともに、経験の異なる学生に対応したピアノの個人レッスン（45分）を複数教員で指導することを並行して行います。保育者・教員としてのピアノの演奏の技能、コードによる弾き歌いの技能、音楽表現のための基礎技能を伸ばします。

授業計画

第1回	(クラス授業) ガイダンス、教育の現場に対応する音楽能力の伸ばし方、鍵盤と音階の関係 (個人レッスン) 個々の学生のレベルに対応した練習教材の決定
第2回	(クラス授業) リズム、読譜ワーク、ド～ソの全調奏 (個人レッスン) 練習教材の配布
第3回	(クラス授業) 歌唱や演奏に必要な読譜演習 (個人レッスン) 各進度に応じたレッスン
第4回	(クラス授業) 歌唱や演奏に必要なリズム演習 (個人レッスン)
第5回	(クラス授業) 歌唱や演奏に必要な基礎的音楽理論、リズム、拍子 (個人レッスン)
第6回	(クラス授業) リズム演習、音階・ハンドサイン (個人レッスン)
第7回	(クラス授業) 和音の基礎、歌唱曲・ハンドサイン (個人レッスン)
第8回	(クラス授業) I・Vの和音、歌唱曲・ハンドサイン (個人レッスン)
第9回	中間実技テスト
第10回	(クラス授業) ハンドサイン・テスト (個人レッスン)
第11回	(クラス授業) 「ちょうちょう」 I・V全調課題について (個人レッスン)
第12回	(クラス授業) 和音による伴奏法、テキストの歌唱曲の演習 (個人レッスン)
第13回	(クラス授業) 「ちょうちょう」 I・V全調課題の授業内テスト (個人レッスン)
第14回	(クラス授業) 和音による伴奏法、テキスト歌唱曲の発声 (個人レッスン)
第15回	(クラス授業) 和音による伴奏法、テキスト歌唱曲の表現 (個人レッスン)
第16回	期末自由曲実技試験

到達目標

子どもたちと楽しく活動できるような教員・保育者になるために、教員・保育者に求められる Musicianship の重要性と、自身および子ども双方の音楽的能力の伸ばし方を理解し、リズム打ち、ハンドサイン、読譜、歌唱、ピアノ演奏、和音伴奏などの基礎的な音楽表現の方法を身に付けます。春期は「ちょうちょう」の I・V を用いた全調の伴奏および弾き歌いをマスターします。

履修上の注意

すべての授業に出席することが大切です。特に個人レッスンの機会は貴重ですから、1回1回を大切にしましょう。「クラス授業」もしくは「個人レッスン」のどちらかを休むとその日は欠席となります。また、遅刻3回で欠席1回とします。楽器は丁寧に扱い、音楽室使用の諸注意を守ってください。幼稚園や小学校、保育士で求められる教育の現場に対応する音楽技能として必須の内容です。小学校教員免許のための必修科目ですが、幼稚園、保育士の実習で問われる「弾き歌い」のための科目です。

予習・復習

練習では必ず目標を立て、そのつど、どこまでできたか確認しましょう。個人レッスンは練習をしたうえで受けることが必須であり、練習していない状態での参加は効果が期待できません。短時間の個人レッスンの指導を効果的に身につけるため、少しでも向上したと思えるまでピアノの練習をしましょう。ピアノの初心者、実習で必要な「弾き歌い」の基礎を1年間で学ぶので、相当な覚悟で練習に取り組んでください。

評価方法

練習状況および授業態度（20%）、実技試験（50%）、全調課題（15%）、ハンドサイン（10%）、学習記録（5%）を総合して評価します。

テキスト

合同授業用

- 教科書名：保育者のためのピアノの基礎
- 著者名：井口太・笠井かほる
- 出版社名：朝日出版

他にプリント配布。

個人レッスン用

『おとなのためのピアノ教本』I～V巻（ドレミ楽譜）
使用する巻は進度に応じる。授業内で販売。